



国際ロータリー第2790地区第3分区B

— 2010～2011年度 —

## ロータリー情報研究会

テーマ『私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか』

# 報告書



「地球を育み、大陸をつなぐ」

2010-2011 年度RIのテーマ

市原ロータリークラブ ・ 千葉港ロータリークラブ  
市原中央ロータリークラブ ・ 千葉北ロータリークラブ  
千葉緑ロータリークラブ ・ 千葉南ロータリークラブ

主 催 国際ロータリー第2790地区第3分区B  
ガバナー補佐 水野 謙一  
開 催 日 2010年9月24日(金) 点鐘 14:00  
会 場 オークラ千葉ホテル  
ホストクラブ 千葉南ロータリークラブ

# 国際ロータリー第2790地区第3分区B

2010-2011年度

## ロータリー情報研究会

テーマ 『私たちは なぜ週一度ロータリーに集うのか』

司会進行 千葉南RC・幹事 小林 透

- 13:30 登録受付
- 14:00 点鐘  
国歌斉唱 「君が代」  
ロータリーソング 「奉仕の理想」  
『四つのテスト』唱和  
ガバナー補佐 水野 謙一
- 14:10 第3分区Bガバナー補佐開催趣旨挨拶  
ガバナー補佐 水野 謙一
- 14:15 開催挨拶及びゲスト紹介  
ホストクラブ会長 榊原 行夫
- 14:20 地区職業奉仕委員会委員長ご挨拶  
パストガバナー 土屋 亮平  
(松戸RC)
- 14:25 卓話 地区職業奉仕委員会・クラブ研修員会委員長 海寶 勘一  
(千葉西RC)  
『私たちは なぜ週一度ロータリーに集うのか』
- 14:50 ◆◇◆◇◆◇◆◇ 休憩 ◆◇◆◇◆◇◆◇
- 15:00 各テーブル毎の討議及び意見交換
- 16:00 各テーブル毎の意見発表
- 16:40 ガバナー補佐総評挨拶  
ガバナー補佐 水野 謙一
- 16:45 閉会挨拶  
千葉南RC・会長エレクト 出井 清
- 16:50 点 鐘  
ガバナー補佐 水野 謙一

## ロータリー情報研究会開催にあたって



国際ロータリー第2790地区  
職業奉仕委員会

委員長 土屋 亮平 (松戸RC)

国際ロータリー第2790地区第3分区Bロータリー情報研究会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本年度のロータリー情報研究会は、水野謙一ガバナー補佐様のご指導の下、榊原行夫千葉南ロータリークラブ会長様を始めとする第3分区Bの皆様のご協力を戴き、情報研究会をこのように立派に準備して戴きましたことに対し、衷心より感謝申し上げます。

さて、本年度の織田ガバナーは、5大奉仕部門の内、職業奉仕が最も理論的であり、倫理的であると結論づけられました。そのような観点から、今後益々増えることが予想されるであろうRIからの提示、並びに案件につきまして、各クラブがそれらについて、独自に、その是非の判断を下す必要性が想定されます。それ等に対応すべく、各クラブの職業奉仕委員会の中に『クラブ研修員会』を設置することを要望され、常日頃から研鑽を積んで頂きたいと、断つての要請でございます。

特に織田ガバナーは、今年度、各分区毎に開催されますロータリー情報研究会を地区の職業奉仕委員会が担当するように指示され、テーマも「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」と示され、「出席なくしてロータリーなし」と言いますが、出席の重要性を再確認して、真のロータリーライフを構築して頂きたいとの思いと拝察致します。

“出席と申しますと、これはクラブ奉仕の分野ではないのか？”、“今更そんな当たり前のことを議論するのか？”等のご意見も聞きますが、ロータリークラブの定例会は、些か異にします。例会と言っても一連のセレモニー、食事、卓話、それ以外にロータリーの例会にはもっと深遠なものが存在しなければなりません。それを本日摺み採って頂きましょう。それこそが、職業奉仕を理解する上での大前提であるからであります。

第3分区Bのロータリアンの皆様、今日の研修会は皆様の研究会であります。敢えて言わせて頂ければ、地区の職業奉仕の任務は、職業奉仕への道案内に過ぎません。

どうぞ活発なるご意見を頂き、楽しく、実り多い研究会になりますことを期待致します。混迷する社会で生き残る道は、唯一、職業奉仕の実践『大道無難』に尽きます。

## ご挨拶



国際ロータリー第2790地区  
第3分区B  
ガバナー補佐 水野 謙一

皆様、こんにちは。

本日の「第3分区Bロータリー情報研究会」は、各クラブ会長・幹事始め、会員皆様のご協力により全員登録で開催される運びとなりましたこと、深く感謝申し上げます。そして、多くの会員皆様にご参加を賜り誠に有難うございます。

又、ご多忙中にも関わらず地区より、職業奉仕委員長・パストガバナーの土屋亮平様をはじめ5名の方にお越し頂きました。有難うございます。クラブ研修委員会・海寶委員長には、後ほど卓話を頂戴することになっておりますので宜しくお願い申し上げます。

今回は、R I 第2790地区織田吉郎ガバナーの基本である「ロータリーの綱領」に、職業と誇りと価値を求めて、高潔な職業人の集まりであるべきクラブ例会の重要性を認識するためということで、『私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか』というテーマとなりました。海寶委員長の卓話の後にグループ毎の活発なご討議を期待しております。

本年度のR I 会長レイ・クリンギンスミス氏は、R I のテーマとして「地域を育み、大陸をつなぐ」を提唱されました。織田ガバナーは、職業奉仕を中心に「奉仕活動の実践によって、地域を住みやすく働きやすい場所に変え、世界平和、国際理解を深めより良い場所にしていこう」という方針に「例会を通じて自らを磨き続けること」を基本に捉えてこのテーマに真摯に向き合い、心をひとつにして奉仕の道を共に歩んで行きましょう。そして、ロータリーを大いにアピールし、ロータリーへの関心を深めて頂きたいと述べておられます。

その奉仕の心が地域に大きく理解され、併せて会員増強にも女性会員増強にも繋がれば大変心強いものがあります。

昨今の経済は変化の激しい情勢下ではありますが、互いに手を取り合い、クラブ発展のために、職業繁栄のためにも弛まぬ努力をお願いしたいと思っております。

本日のロータリー情報研究会が有意義な会でありますよう、心よりお祈り申し上げます。ご挨拶に代えさせていただきます。

## ロータリー情報研究会開催にあたって



千葉南ロータリークラブ  
会長 榊原 行夫

---

本日は、当クラブのホストによる「ロータリー情報研究会」にご出席いただき誠に有難うございます。又、地区職業奉仕委員会、クラブ研修会委員長の海寶様にはご多忙のところ、素晴らしい卓話を頂戴できますこと、有難うございます。

本年度のテーマ、「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」は、大変奥深い多種多様性のある面も私共ロータリアンにとって重要な課題であると思います。「何故ロータリークラブへ入会したのか」「何故一週間に一度ロータリーに集うのか」、何故とは・・・一定の定義のないことを言うのであって、各人各様なご意見があることと存じます。

人は、一人では生きられぬと申します通り、一生「喜怒哀楽」の人生を送っています。楽しみは分かち合い、哀しみは、親しい友人との話し合いで軽減されます。諺に「挨拶、こんにちは一年、会食一ヶ月…30日、スポーツ一度…一回の対戦」で友人を作ることが出来ると言われております。

ロータリークラブは、会食の内に入りますが、多種多様な形態あり、そして卓話あり、研修会があります。四大奉仕の活動計画による実践的な活動の中から生まれる真の友情こそがロータリークラブの本質であると思います。

ロータリークラブの主体は、そのクラブの中にあり、クラブの特性を生かし、クラブの繁栄を図ることが、会員、個人の進展にも寄与し、ロータリークラブ全体の隆盛となることと確信しております。

本日の研究会の成果が、参加クラブの繁栄と皆様の力強い糧となれば幸いに存じます。

テーマ… 「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」

卓話者… 地区職業奉仕委員会・クラブ研修委員会  
委員長 海寶 勘一様 (千葉西RC)



地区職業奉仕委員会に属します、クラブ研修委員会の海寶勘一と申します。ホームクラブは千葉西ロータリー・クラブです。今日は皆様方との友愛交流が深まることを期待して、緊張と不安を交錯させたまま、楽しみに訪問をさせて頂きました。

今年度、織田ガバナーからは職業奉仕の理解をより深めるために、14分区ごとにロータリー情報研究会を開催して、会員の皆様と地区委員が共に考え、語り合う中で、ロータリーの綱領を理解し、ロータリーの理念を認識し、より一層ロータリアンとしてのスタイルを磨くよう提議されました。第3分区Bに於きましては、水野ガバナー補佐さんに意義あるご指導を賜り、榊原会長さん始めとする千葉南ロータリー・クラブの皆さんには、素晴らしい情報研究会の設営をすべてにお願いしましたこと、心から御礼を申しあげますし、大変なご尽力を頂きましたこと誠にありがとうございました。

今日は、ロータリー情報研究会のテーマであります「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」を、分区の皆様と謙虚に語りあえる絶好の機縁として、この後にありますグループ討議を意義深いものにして頂きたいものと、今から楽しみにしております。

つい先日のことですが、地区職業奉仕委員長の土屋亮平さんが書かれた報告書を目にしていたら、結びの言葉に「ロータリーの職業奉仕は大道無難につきます」と書かれておりました。その意味合いは、「誰しものが不正をせず、回り道のようにでも正義を心得、慈愛をもって努力をし、悪さをせず惑わずに正義を実践するならば、事業繁栄は約束されるものである」と書かれていました。大道無難のように卓話が上手できるか不安がありますが、しっかりとお役目を果たさせて頂きます。

さて、私ごととなりますが、ごく最近になって漸く理解されてきたことが、ロータリー精神は気高くあり、常に純真であり、常に多様性があり、常に思いやりと寛容の精神をもつことであり、友愛交流をする例会の中からは、沢山の人間学を学ぶ機会があることを感じとれるようになりました。自クラブである千葉西ロータリー・クラブでは、長年とかく奉仕活動を実践することだけに、重きをなしていたのですが、ロータリーの目的となっていますロータリーの綱領をしっかりと理解して、標準クラブ定款とクラブ細則に書かれております条項を一層よく読み込むことを始めました。

重ねて私自身の未熟さを露呈しますと、標準クラブ定款には第4条で綱領が謳ってあり、第15条では、入会時に綱領を受諾したことと、定款と細則を遵守する旨が書かれていることが、まったく認識不足でした。職業人として職業倫理を身につけ、考えたり学んだりする人々の集いがロータリーであることや、地区セミナー等で職業奉仕こそが、ロータリーの根幹なのだと教えられても、なかなか自分では上手く理解することができませんでした。漸く今になって、僅かでも理解ができるようになったことは、ある程度の経験と勉強の時間が必要であったことと、こうしたロータリー情報研究会や地区委員会セミナーに積極的に参加することや、クラブ内外の仲間と積極的に語り合い、考えあうことができたからでありますし、基本的な倫理観を真面目になって学ぶ大切さや重要さを、今になって謙虚に痛感しているところです。

ここで、土屋亮平委員長さんが書かれた、「忘筌(ぼうせん)」という講演文章に掲載されていた、直前RI会長のジョン・ケニーさんの言葉がありますので、基本的なロータリー原則の質問に対して、非常に分かりやすく説明をされている内容をご紹介します。

1. 「ロータリーが他の団体と異なる特徴は」との問いかけに、「ロータリーの基盤は職業奉仕です」。
2. 「ロータリアンの責務は」との問いかけに、「事業と私生活において高い道德水準を保ち続けることです」。
3. 「会員増強の目標は」との問いかけに、「会員として優先すべきは資質であり、数ではありません」。
4. 「ロータリーとは」との問いかけに、「異業種ながら志を同じくする職業人の集まりで、個々に清純でこころ温かに地域社会に奉仕の手を差し伸べることです」。

と応えていて、直前 RI 会長は、ロータリーが職業奉仕を失えば、単なる社会奉仕団体に成り下がり、職業奉仕から倫理観を失えば、職業奉仕は地に落ちてしまいますとも書かれておりました。また、地区研修リーダーの白鳥さんからも広報がされたことですが、ロータリーの友誌と月信7月号では、現 RI 会長のレイ・クリングスミスさんが、「クラブ奉仕と職業奉仕は、どちらも人生を謳歌し、善き市民になるよう私達を導いてくれるものである、また、社会奉仕と職業奉仕を合わせるなら、地元の地域社会を住みやすく、働きやすい場所にする事ができるでしょう」とも述べております。

さて、ロータリーで言う「奉仕の理想」の基本理念なのですが、他人に対する思いやりと、他人を助けあうことであることを確信でき、各会員が率先して職業を通して「奉仕の理想」を実践するならば、社会生活における自身の事業成功と、あわせて人生の幸福に結びついていくことだと思います。その奉仕の理想(Ideal of Service)の意識を高めていくために、仲間をたくさん増やし、一層誠実で良心的な仕事に結びつかせたいものです。取引相手の立場を尊重し感謝をすることから、どんな時にでも真実かどうか、皆に公平か、好意と友情を深めるか、皆のためになるかどうか、の4つのテスト(The Four-way Test)を言行に照らしてから守り、地域社会や世界の人々とも友人になり、理解をしあうことを、健気に自己啓発していきたいものです。

1932年《4つのテスト》を考案したハーバート・テラーが、経営不振に陥ったアルミニウム食器加工会社を引き受け、《4つのテスト》を実践することで事業を再生させ、立派に繁栄を実証させた歴史的事実を知り、我々は《4つのテスト》を真摯に身につけ、その効果にあやかって、是非とも自分自身の職業の尊さと、価値を高めていきたいものです。

さて、ロータリー活動の大部分を占めているのは、毎週一時間ほど開催されるクラブ例会ですが、まさにロータリーの根幹となっており、今日出席するクラブ例会ではどんな出会いがあり、どんな気づきを得られるのだろうか、うきうきした気分で期待感をもって例会に出席できるようであれば、ロータリアンもクラブも共に活性化ができると思います。

私自身ですが、自クラブやメイクアップ先での例会場で意識をしていることは、まずは例会に出席できた心身の幸せを味わい、会員の皆さんからは、有益な事業を率先されている様子を伺い、その溢れる元気なパワーを一身に受け入れることを最優先にさせながら、地区内外のクラブ例会に出席して、多くの仲間と語り合うことから、新鮮な感動と大きな喜びを味わうことができます。様々な仲間との語り合いができる例会場の感化からは、多様なエネルギーを享受することができ、自己啓発や啓蒙が素直に誇らしく思え、ロータリアンでいられることに感謝をするように心掛けています。

今から87年前の1923(大正12)年9月1日にあった関東大震災の時ですが、義捐金 25,000 ドルを贈ってくれた、日本にとってもっとも恩義ある方は、1923年国際ロータリー会長のガイ・ガンディカーさんでした。(ロータリーの友9月号30P掲載参照)ロータリーの職業奉仕の理念を高く謳い上げて、「ロ

「ロータリー倫理訓(道徳律)」を創り上げた方でもあり、著書である「ロータリー通解」はロータリーとは何かを教えるために書かれたものです。「ロータリーの奉仕とは、良質な職業人が例会において自己研鑽を遂げ、一例会終わるごとに自分の心の世界が深く広くなり、自分の力量が大きくなっていくことを意味するのであって、実力の涵養と人格の形成が根本である。こうして自分の人格の形成のエネルギーが、やがて社会万般を潤すことになる。これがロータリーの奉仕であります」と「ロータリー通解」には書かれているそうです。

約90年前の時代ですが、すでに、ロータリーの例会を自己研鑽の場と位置づけて、自分を磨き高めることにより自分の企業は発展し、したがって従業員も取引先も顧客も共に幸せになり、社会の発展を導くこと、これこそがロータリーの普遍的な職業奉仕だと呼びかけていたのです。私も『職業には貴賤はない』と思い、打算的な営利を目的にしながらも、相手を思い遣る優しい心を養う愛情をもっていれば、その積み重ねからは、近江商人の経営理念にあります『三方よし』、すなわち『売り手よし、買い手よし、世間よし』の達観心に繋がっていくのだと信じているところです。

さらに米山梅吉翁の「ロータリーの例会は人生の道場である」はあまりにも有名な言葉ですが、「学びて然る後に足らざるを知る」という教えのように、足らざるところは無限にあるわけです。物の考え方や立ち居振舞い、言葉づかい、生きる姿勢、あふれる情熱、持てる能力、知識の深さ、生きた情報等々、人間として、また経営者として、仲間の会員から身につけるべきことはたくさんあるように思います。

例会の目的ですが、職業上の発想の交換を通じて、相互に分かち合いの精神による経営事業の永続性を学びあい、友情を深めあい、自己心の改善を計ることにあり、その結果として奉仕の心、即ち、社会に役立つ価値を提供することや、思い遣りの心を育むことになるのだと思っています。クラブ例会は単なる食事会ではなく、親睦の場であることも忘れてはいけませんし、ロータリーの目指す親睦とは、フェロシップである会員同士の揺るぎない信頼関係を築き上げることにあります。毎例会の中では、強い個性をもった会員同士がお互いに胸襟を開いて語り合い、毎朝、毎晩する歯磨きと同じように、お互いが職業人としての信頼と信用を磨き、正直で誠実な心磨きができることを率先できるようになりたいものです。

感謝をもって「奉仕に徹するものに最大の利益あり」の倫理を信じ、率先してロータリーの一番大切な真理を学び、真の仲間づくりに専念することが、最も肝心要であることを確信しているところです。

ロータリーとは、職業奉仕理念の研鑽と実践を目的とした団体であることを、今まさに認識を深めています。それは、定款第4条に書かれているロータリーの綱領の主文に、「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成する」と書かれていますし、副文第2項には「事業および専門職務の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めること」とあります。「ロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること」とも書かれていますので、ロータリーは職業奉仕を目的とした仲間の集団であることが改めて理解できています。ロータリーには2つのモットー(標語)がありますが、第1モットーは、フランク・コリンズが説いた「超我の奉仕」“Service Above Self”。そして、第2モットーが、アーサー・シェルドンの言葉で知られる「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」“One Profits Most Who Serves Best”です。

日本のロータリーの創始者である米山梅吉翁は、第1モットーの「超我の奉仕」は、「サービス第一、自己第二」と訳し、第2モットーも、「最善のサービスをすれば、結果として最大の利益が得られる」と訳されていて、非常にわかりやすく良く理解することができます。さらには、自己を高めて他人に奉仕をすること、すなわち、人を思いやり弱者の立場にいらっしゃる方に心配りや手をさしのべて、他人



に尽くす献身と誠実に行動することが、第1モットーになっている「超我の奉仕(Service Above Self)」そのものであると思うのです。

第2モットーである「最もよく奉仕をするもの、もっとも多く報いられる(One Profit Most Who Serves Best)」という実践理論の原理は、多くのロータリアンが共鳴され、心の指針として学び、日々職業奉仕に励む勇気を得ることができていることでしょう。私のなかでのロータリーは、「人は如何に生きるべきかを考え学ぶ処」と理解をして、卒業のない人生学校の学び舎となっているのが、毎週のクラブ例会だと信じています。

ロータリーの素晴らしさは、「ロータリーの綱領」の副文第1に書かれているように、多くの知り合いを広める事にありますし、クラブは勿論ですが地区内や他地区とのロータリアンとの友情と奉仕の交流こそ、ロータリーの感動や醍醐味を、一層深く味わえるものと思っています。私の体験上なのですが、地区を越えて交流を広め深めることは、生涯を通じて利害を越えた、人生の師や真の友達を得る幅ができましたし、ロータリーの感動をたくさん享受できているところであります。

如何に魅力あるロータリーとは、楽しい例会であり、為になる例会であり、思い遣りと語り合い考え合いながら運営されることが、例会の理想になるとしています。私たちは今こそ毎週の例会場で、自発的に果敢な語り合いをして、真のロータリー、真の職業奉仕とは何であるかを考えあつて、横柄さを捨て去りお互いが豊かな心をもって、人格成長への学び合いをしていきたいものです。「ロータリーとは親睦と奉仕を通して自分を磨くこと」であり、「親睦とはロータリアン同士が、ゆるぎない信頼関係を作り上げること」であり「奉仕とは素直に人への思い遣りと気遣いや心配りをする事」とであると受け止めて、毎例会ではお互いに許しあえる寛容の心を学びとっていきたいものです。

ここで改めてクラブ職業奉仕委員会の任務を考えてみますと、個々の会員に対して自己研鑽を進言したり、ロータリーの勉強会を企画して、職業倫理の誠実さを貫くことであり、自分の職業繁栄に繋がる思いを、会員同志が身を以て体験し、発表できるように奨励すべきことだと思います。あわせて、現職のロータリアンはより一層高潔な職業人を目指して頂き、現役を退かれたロータリアンは現職の方々を、一層育成鼓舞することに自信と矜持をもって頂き、クラブも会社も共に有益な活性ができますように、改めて克己心を養えるようにするのも、クラブ職業奉仕委員会の役目だと思います。

『ロータリアンよ！一流の職業人たれ』と言う、凛々しい言葉が耳に聞えるようすし、皆様と一緒にになり、一流の職業人を目指して、良きことを為そうとする前に良き人間であるように、一人ひとりが持つロータリーの道を、幅広く有益に歩み楽しみたいものです。ロータリーの例会や全ての集会に参加するときには、ロータリアンとしての誠実な心を磨くという目的意識を持って参加し、例会や集会を終えて職場や社会に戻れば、磨いた奉仕の心を実践に移すことを心がけたいものです。

ロータリー活動のすべては、自己啓発なので、率先する自己研鑽の考え方が尊重されるからこそ、最もよく奉仕をする者最も多く報いられることが、普遍的に理解できるのだと思います。会員が、付ける権利をもっているロータリーバッジも、高潔な職業人として、信用し信頼できる者が付けることを許された証であることを良く理解して、誇れる職業人の襟章として心得たいものです。

これからも、「私たちは何故週に一度ロータリーに集うのか」を心において、ロータリアン一人ひとりが、率先してクラブでの研修リーダーの役目を心掛け、スタイルを磨き、勇敢に意識改革をして頂けるように、第3分区B内6RC会員皆様の有意義なご活躍と、実りある成果を期待させていただきます。

最後に、土屋亮平地区職業奉仕委員長さんの講演文、楽をする誘惑の中にある、私が大好きな詩「人が生きるということ」の一部文を御紹介させていただき、私の拙い卓話を終わりとさせていただきます。

人が生きるということは誰かに借りをつくること  
 そしてその借りを返してゆくこと  
 誰かにして貰ったように誰かにしてあげること  
 人が生きるということは誰かと手を繋ぐこと  
 そしてその手の温もりを忘れないでゆくこと  
 巡りあい 愛しあい そして別れたのち悔やまぬよう  
 今日明日を生きよう 人は一人で生きてゆけない  
 人は一人で歩んでゆけない

皆様と一緒にロータリーを誇り楽しみ、ロータリアンとしての資質を高めて、高潔な職業人を目指して大いに修練していきましょう！  
 ご清聴ありがとうございました。

### 出席者

- ・ 地区 職業奉仕委員会 土屋 亮平 委員長 (松戸RC)
- ・ 地区 職業奉仕・研修委員会 冨 一美 委員長 (成田空港南RC)
- ・ 地区 職業奉仕・研修委員 足立 俊夫 委員 (茂原RC)
- ・ 地区 職業奉仕・クラブ研修委員会 海寶 勘一 委員長 (千葉西RC)
- ・ 地区 職業奉仕・クラブ研修委員会 川名 光俊 委員 (館山RC)
- ・ 第3分区Aガバナー補佐 宇佐見 透様 (千葉幕張RC)
- ・ 第3分区Bガバナー補佐 水野 謙一様 (千葉南RC)

計 7名

	市原 RC	千葉港 RC	市原中央 RC	千葉北 RC	千葉緑 RC	千葉南 RC	計
登録人数	44名	29名	52名	22名	28名	40名	215名
参加人数	16名	8名	12名	8名	7名	28名	79名

## 【Aテーブル】

発表者⇒ 板谷 賢治会員(千葉緑RC)

〈市原RC〉西村美恵子・三宅 豊・始関信夫 〈市原中央RC〉毛利寛行 〈千葉南RC〉大野良亮・  
上田欽一 〈千葉緑RC〉板谷賢治

1. 週に1度が丁度良い。  
週に2～3回だと忙しくて出られない。月に2回や1回だと顔も忘れてしまう。
2. 長く付き合っていくうちに気心が知れて、考え方等を勉強したり、研鑽したりしながら自分自身に  
得るものがある。
3. 話すことによって、自分の悩みや心配事が、違った話の中でヒントを得て消えていく。

私事ですが、今日の情報研究会に出席して、少し目覚めたかなという気がしました。

## 【Bテーブル】

発表者⇒ 長島 利忠会員(千葉緑RC)

〈市原RC〉岡本和也・本郷雅嗣 〈千葉港RC〉坂本庸夫・行方健司 〈千葉北RC〉石井七郎  
〈千葉南RC〉出井 清 〈千葉緑〉長島利忠

テーマ 『私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか』について

1. 週1回の例会が生活のリズムになっていて丁度良い。
2. 週1回の例会での会員との出会いが親睦を深めやすいペースである。
3. 週2回以上になると出席が難しい。
4. 月1回になると、ロータリーの事業がやりにくい。
5. 月4回の例会プログラムがあるため。

「週一度」という所が難しいので「なぜロータリーに集うか」に変えて

1. 異業種の集まりに興味があり、例会に出席している。
2. 同業種では本音が言えないけれど、例会では異業種の集まりなので本音で話しができるから。
3. 例会は、人との出会いの場として同世代や先輩方との話しができるから。
4. 例会は、自己研鑽や会員間の友情を深められるから。
5. 例会プログラムが充実しているから。
6. ロータリーに入会し、多くの知り合いが出来て良かった。
7. 例会の卓話でいろいろな人の話しが聞けるから。

## 【Cテーブル】

発表者⇒ 栗原 賢一会員(千葉北RC)

〈市原RC〉津留起夫 〈千葉港RC〉谷崎満男 〈市原中央RC〉田仲正道・大西英樹

〈千葉緑RC〉大木喜彦 〈千葉南RC〉野本富美子 〈千葉北RC〉栗原賢一

1. Cテーブルは、全ての方が会長経験者ですので、なぜ週一度集うのかということについては、入会時より承知していたので疑問を持つことがなかった。
2. 集うことが生きた情報交換になることと理解する。

## 【Dテーブル】

発表者⇒ 大西 英樹会員(市原中央RC)

〈市原RC〉小池清二 〈市原中央RC〉遠藤元明・井上賢司・斉藤正明・榎本初雄  
〈千葉南RC〉川合柁栄・向後保雄・水野謙一(A・G)

1. 通常は、業界仲間との付き合いが主で、多くの他業種、磨かれた方々の話を聞くことが出来る。
2. 委員長→ 幹事→ 会長の中で自学し、自らが高められる。
3. ロータリアンとして、何をすべきかを論じ職業奉仕をすることで社会貢献出来ることが嬉しい。楽しい。20年組はやめられない。
4. 新入会員向けのメニュー、バランスの良いメニューを考えていくことが必要。
5. 出席出来ないのが辛い。出席したい→出席すれば何かが付いてくる。それがロータリー。
6. 自分の考えを多くの方に話すことが出来、自分の考えに対するリアクションを確認出来る。

## 【Eテーブル】

発表者⇒ 林 正弘会員(千葉港RC)

〈市原RC〉上條優雄・齋藤 博(P・G) 〈千葉北RC〉長塚公毅 〈千葉緑RC〉藤田静江  
〈千葉南RC〉花澤 衛 〈千葉港RC〉林 正弘

- ◇千葉港RC・林会員… 入会時から出席するものと教え込まれていた。出席は当然であり、討論としてはその裏に隠れたテーマがあるように思える。
- ◇市原RC・上條会員… 結論からいえば、ロータリアンの義務から会費・出席・ロータリーの友の購読の3義務を条件に入会したので当然。
- ◇千葉北RC・長塚会員… 昔は入会条件が厳しかった。最初の教育が大切である。出席することが当然だと考えている。出席規定が緩やかになるに連れて出席率がかえって悪くなり、ロータリー活動そのものが悪くなっていく気がする。但し、教育が厳しいと入会者が少なくなる拡大、増強問題が出てきてしまう。
- ◇千葉緑RC・藤田会員… 入会する時が甘いときに入会しているので、皆さんの話しにビックリしている。今まで、出席率もロータリアンとしてのステータスもあまり考えたことがなかった。
- ◇千葉南RC・花澤会員… 入会36年目で100%を続けているので、出席は義務であるからして何とも考えられない。ロータリーは、奉仕団体ではなく奉仕をする人々の団体であることに還すべきと考える。
- ◇市原RC・齋藤会員(P・G)… あまり難しく考えるよりは、若い人達をどのようにして教育して行くのか

が問題となるのではないかと思う。先輩が良き指導者となり、後輩を引っ張って行く。そのことが週一回集う結果となり、自然の流れとして活性化が図られていくのではないかと思う。

- ◆結論… 歴代パスト会長。パストガバナーがいらっしゃるテーブルで、週一度集まるのは当然であるという雰囲気の中でスタートした。むしろ、海寶委員長の卓話の裏に隠れたロータリーの活性化、増強と拡大のテーマが本来の意味ではないかとも感じられ、主としてロータリーの今後の姿について熱く議論が交わされました。

## 【Fテーブル】

発表者⇒ 宮地 勝広会員(市原RC)

〈千葉港RC〉鈴木芳明 〈市原中央RC〉泉水博史 〈千葉南RC〉榊原行夫・太田和夫・末吉淳子  
〈市原RC〉宮地 勝広

1. なぜ週1度かということが、一番意味がありそれぞれの考え方があるので、内容を充実するために最低一週間に1度は最適ではないだろうか。(コミュニケーションを持つために席を各週毎に変えていくという方法もある。)
2. 若いロータリアンに対してのクラブの指針や何の為のロータリアンかわからず辞めていかれている。そういったことがどのクラブも抱えている問題ではないだろうか。公式訪問での話を聞いていてなんとなくわかった。
3. クラブ内での進め方は、クラブ内の自治権があり、クラブ定款により進めることは目標であり、その通りにやる必要はない。その時の会長・幹事で決めていくことが良いのではないだろうか。
4. せっかく入会されたロータリアンに対し、先輩方が教えるのではなく、自ら学習をするという気持ちが必要ではないだろうか。(宿題等を考えるのが1週間)
5. 色々のロータリアンの方と知り合うことが良いことで、卓話を通じてその世界の話しが分かってくるので参考になっている。このような研修会を通じて、お教えを得ることも良い。
6. 纏めとして… 入会されたロータリアンをいかに退会させないかについては、クラブ毎の進め方で違ってくるとは思いますが、個人に対し、得とくするものを皆で作って行けば良いのではないだろうか。ロータリーは人格を作る場であると思います。

私ごとですが、私自身の今後の指導力や又、私自身の人生の向上 etc を得るために参加。そして、その学習したことを職業奉仕として実務出来ればと思います。

## 【Gテーブル】

発表者⇒ 西村 芳雄会員(市原RC)

〈市原RC〉伊藤秀樹・西村芳雄・増田尚隆 〈千原中央RC〉及川喜和 〈千葉北RC〉  
〈千葉緑〉〈千葉南RC〉

週一度の例会になぜ集うのか。

それは、諸先輩や又、異業種の方々のいろいろな本音の話しが聞け、そうすることが自己啓発や研鑽となり自分の職業に大いにプラスという意見がありました。また、役職に就いているからという意見も

ありました。そして、今後は魅力ある、また、意義あるクラブにするためには、各クラブの事情が異なりますので、今日のセミナーの議題を持ち帰り、クラブで話し合い、活性化に繋げていきたいという結論でした。

私事で恐縮ですが、私自身は入会してまだ2年と9か月です。毎週の例会で何かを持ち帰るように、また、それが生かされるよう出席しております。

また、「4つのテスト」を常に念頭におき、日々の経営や生活にも従事しております。入会して本当に良かったと思っております。

## 【Hテーブル】

発表者⇒ 高橋 英雄会員(千葉港RC)

〈市原RC〉白鳥 正孝(P・G) 〈市原中央RC〉鈴木 雅博(P・G) 〈千葉南RC〉塩谷 邦昭  
〈千葉南RC〉瀬谷 研一 〈千葉南RC〉杉本 峰康 〈千葉港RC〉高橋 英雄

1. 例会は、ロータリーの義務であり、多くの人(仲間)を知り、情報を得、プログラムを楽しめる特権(権利)がある。これを入会時に指導して行くことが大切。
2. 例会で毎週顔を合わせる事が他団体と異なり、顔を合わせる事により、わだかまりがなく付き合い、習慣化している。
3. 例会だけでなくいろいろな委員会に参加することにより、楽しみが付いてくる。
4. 欠席すると出席しづらくなることもある。例会や委員会に出席するモチベーションを上げていくことが大切だろうと考える。
5. 例会が人生のルールになっている。例会だけでなく、委員会活動や炉辺会議にも参加するとモチベーションが上がるだろう。
6. 子供は、学校の休み時間に成長すると言われている。ロータリーの例会は、大人の休み時間ではないだろうか。

## 【Iテーブル】

発表者⇒ 山本 順也会員(市原RC)

〈市原RC〉平野哲也・山本順也 〈市原中央RC〉守屋謙一郎・池田兼雄・山崎幸男  
〈千葉北RC〉神長洋士 〈千葉緑〉森 茂樹 〈千葉南RC〉竹尾 白・吉田裕成

例会出席は、職業奉仕と並ぶロータリーの原点。

状況として、ガバナー月信の出席率を見ても低下傾向にある。各クラブ会費だけ払って出席しない会員もいるようである。理由としては、出席を甘くしている。会員が減るとクラブの収入が厳しくなる。会員増強とのジレンマがある。特に若い会員は仕事が忙しく仕事優先となる。クラブ自体に活気がなくなっている。前年度と同じことをこなせば良いという前例主義で形骸化している部分があるのではないだろうか。

どうすれば良いか？

- ① 会員にとって、魅力ある組織かどうか？

他の異業種業界とロータリーの違いは、職業奉仕という原点としての魅力、地域への奉仕根幹がぐらついている。自治の問題になるが、各クラブの方針を出す。

例えば、その年のテーマを会長が考え、それに従いSAA、プログラム委員会等が一生懸命考え運営する。

- ② 運営上、出席率の悪い会員に退会していただいたというクラブもあった。又、海外の事例で、入会資格を厳しくした結果出席率が向上し、入会が順番待ちのクラブもあるということである。
- ③ 新会員のオリエンテーションを行う。  
若い会員にしっかり理解してもらおう。例えば、齋藤P・Gが作られた「ロータリーのしおり」などを読んで頂くと良いのではないかと思う。
- ④ 若い人にも意見をぶつけてほしい。そのことで活発になる。先輩方と会う楽しみを持って参加してほしい。

## 【Jテーブル】

発表者⇒ 和田 治文会員(千葉北RC)

〈市原RC〉三木 敏靖 〈千葉港RC〉山崎 喜雄 〈千葉緑RC〉浅田 金誉  
〈千葉南RC〉伊藤 和夫 〈千葉北RC〉和田 治文

1. 週1回出席するのは、ロータリアンとしての義務だと思っている。
  - ・週1回出席することは、大変大きな負担であるが、無理をして出席していくうちに他の会員とも親しくなれ、理解し合え、自分の居場所が出来てくる。
  - ・自分自身は、まだまだ未熟なため、自己研鑽、人生の勉強の場考え、週1回出席している。
2. 異業種との交流で様々な情報収集がタイムリーに入手出来る。
  - ・出席すれば、必ず何らかの役に立つ情報が得られ、入手した情報が仕事に結びつくなど、大きな楽しみともなる。
  - ・月1回ではなく週1回の出席だから、タイムリーな情報を得ることが出来る。
3. 週1回の出席を自分に課すことによって。
  - ・計画的なスケジュール管理、プライオリティ管理をするようになり、仕事にメリハリを付けることが出来る。
  - ・週1回、相応の時間を割くということは、自分の中でのロータリーの位置づけを大いに高めることとなり、結果としてロータリー活動の意義の理解に繋がる。
4. 入会者もある程度いるのに結果として、会員が減少し続けている。
  - ・新入会員が、あまり例会に出席せず、ロータリーの活動内容が殆どわからないままに退会している例が多い。
  - ・週1回の開催は、出席さえしてもらえば、他のメンバーと早く懇意になり、早くロータリーの活動を理解してもらうことが出来るシステムだと思う。
5. 要望事項
  - ・現役で自ら中心になって仕事をしている若い会員が出席しやすいよう、開催時間を午後の真ただ中ではなく、16時位からにしてほしい。